Kyoto Municipal Junior College of Nursing



# シュタイナーの湿布療法（その５）
## —ユーカリオイルを使ったオイル湿布（湿ー熱湿布）—

伊藤　良子

以下は「Monika Fingado(2001): Therapeutische Wickel und Kompressen, Natura Verlag.」（『モニカ・フィンガドー（2001）：湿布療法　—イタ・ヴェーグマン・クリニックのハンドブックより—，ナトュラ出版）』）より，著者の許諾を得て一部を訳出したものである．

### Ⅰ．ユーカリオイル湿布
### (Oleum Eucalypti 100%)

熱湯の中に100%ユーカリ精油を数滴混和した液体を，内布に含ませ，湿－熱湿布として（湯たんぽを添えずに）施療する．

1）ユーカリ

ユーカリは，ユーカリ樹という，オーストラリア産の，早く高く成長する樹木である．ユーカリは，湿地から，多量の水分を吸収し，そこから，硬質の幹と，細く非常に硬い葉を形成する．強い光と熱の要素を持っており，葉は非常に多くの精油を含有し，強い香りを発する．

2）作用

内布の強い熱によって，血管が拡張し，血流が増加して，弛緩と緊張緩和の作用をもたらす．熱い内布をあてがうことにより生じる初期の強い熱の力（インパルス）は，その後，オイルの持つ作用によって，妨げられることなく効力を保ち続ける．

加えてユーカリオイルには，抗菌・抗炎症作用もある．

3）注意

| |
|---|
| 湿った内布が冷却しないための，温かい外布が，この湿布においては，特別に重要である． |

### Ⅱ．膀胱湿布

1）適応と施療時刻

・神経性の夜間の頻尿（Nyktuie）
・急性・慢性の膀胱炎（Cystitis）

この湿布は，大抵は就寝直前に，或るいは，症状の発現時に行う．

3）禁忌

・月経初日，腹部領域への熱湿布は，出血を過度に促す可能性がある
・ユーカリアレルギー，基材オイルのアレルギー
・皮膚の創傷，湿布部位の湿潤性のまたは炎症性の皮膚疾患

4）必要物品

・100%ユーカリオイル　５滴
・約75℃の熱湯　300ml
・平らな洗面器
・内布と絞り布
・腰部を大きく包み込める大きさの外布
　安全ピン
・必要に応じて，熱い湯たんぽ



NII-Electronic Library Service

Kyoto Municipal Junior College of Nursing



5）準備（詳細は，参考分献[1]を参照のこと）

内布を約15×20cm大に折り畳む．外布を両側から中心へ向かって巻き，湯たんぽで温めておく．

6）実施方法

洗面器の中に熱湯を注ぎ，ユーカリオイルを滴下する；オイルは，速やかに熱湯の表面に広がる．

外布をクライエントの肩幅に広げ，ベット上に座っているクライエントの背後に置く．そのままクライエントに寝てもらう．

内布を，素早く，湯の表面に浸し，オイルと湯とを，均等に含ませる．絞り布を，洗面器のすぐ横に広げる．内布をその上に載せ，包み込んで，力一杯絞る．絞り布を広げて内布を取り出し，できる限り熱い状態で，膀胱領域に置く．その際，内布を湯に浸す時に，湯の表面に接していて，オイルをより多く含んでいる面を，皮膚に直接あてるように注意する．外布で素早く平らに，密着して覆い，安全ピンで留める．

8）持続時間

20－30分間

湿布が，冷たく感じられるようになったら，状況に応じて，早めに取り去る．

9）後始末

クライエントから全ての布を取り除く．内布を温湯で濯いで絞る．全ての布を風通しの良い所で乾かす．

10）施療後の安静

15－30分間

## Ⅲ．腎臓湿布

1）適応と施療時刻

・急性・慢性の尿路感染（Cystitis, Pyelitis）

この湿布は，通常就寝直前に行う．

2）禁忌

・月経初日，腹部領域への熱湿布は，出血を過度に促す可能性がある
・ユーカリアレルギー，基材オイルのアレルギー
・皮膚の創傷，湿布部位の湿潤性のまたは炎症性の皮膚疾患

4）必要物品

・100%ユーカリオイル　5滴
・約75℃の熱湯　300ml
・平らな洗面器
・内布と絞り布
・腰部を大きく包み込める大きさの外布
　安全ピン
・温かい湯たんぽ　2個（約40℃）
　湯たんぽカバー

5）準備（詳細は，参考文献[1]を参照のこと）

内布を約20×30cm大に折り畳む．外布を両側から中心へ向かって巻き，湯たんぽで温めておく．

6）実施方法

洗面器の中に熱湯を注ぎ，ユーカリオイルを滴下する；オイルは，速やかに熱湯の表面に広がる．

外布をクライエントの肩幅に広げ，ベット上に座っているクライエントの背後に置く．そのまま患者に寝てもらう．

内布を，素早く，湯の表面に浸し，オイルと湯とを，均等に含ませる．絞り布を，洗面器のすぐ横に広げる．内布をその上に載せ，包み込んで，力一杯絞る．絞り布を広げて内布を取り出し，できる限り熱い状態で，膀胱領域に置く．その際，内布を湯に浸す時に，湯の表面に接していて，オイルをより多く含んでいる面を，皮膚に直接あてがうように注意する．外布で素早



NII-Electronic Library Service

Kyoto Municipal Junior College of Nursing



く平らに，密着して覆い，安全ピンで留める．

２つの湯たんぽを，クライエントの両脇に置く．

強い腰椎湾曲のあるクライエントには，背中に小さなクッションをあてがうと良い．

８）持続時間

１時間．湿布が気持ち良く感じられる間．

９）後始末

クライエントから布を取り除く．内布を温湯で濯いで絞る．全ての布を風通しの良い所で乾かす．

10）施療後の安静

30－45分間

## 参考文献


１）伊藤良子（2003）：シュタイナーの人間観に基づいた湿布療法の基礎知識とその一例としての足浴両方の紹介，京都市立看護短期大学紀要，28号．

２）伊藤良子（2004）：シュタイナーの湿布療法（その２）―オイルクロス(精油を滲み込ませた布)を使った湿布療法の基本技術とその処方―，京都市立看護短期大学紀要，29号．

３）伊藤良子（2005）：シュタイナーの湿布療法（その３）―湿－熱湿布・湿－温湿布療法の必要物品とその基本的手順―，京都市立看護短期大学紀要，30号．

４）伊藤良子（2005）：シュタイナーの湿布療法（その４）―ハーブティー（スギナ，カモミール，西洋ノコギリソウ）を使った，湿－熱（温）湿布―，京都市立看護短期大学紀要，30号．

５）伊藤良子（2006）：シュタイナーの湿布療法（その４－２）―ハーブティー（ヒメウイキョウ，ニガヨモギ，カモミール）を使った，湿－熱湿布―，京都市立看護短期大学紀要，31号．

６）伊藤良子（2006）：シュタイナーの湿布療法（その６）―からし湿布―，京都市立看護短期大学紀要，31号．

７）伊藤良子（2006）：シュタイナーの湿布療法（その７）―生姜湿布―，京都市立看護短期大学紀要，31号．




NII-Electronic Library Service